

## 詩吟教本

### 地の巻

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1、天草洋に泊す       | 頼 山陽 (らい さんよう)    |
| 3、赤馬が関懐古       | 菅 茶山 (かん ちゃざん)    |
| 5、磯原客舎         | 吉田松陰 (よしだ しょういん)  |
| 7、一乗寺に遊ぶ       | 伊藤仁斎 (いとう じんさい)   |
| 9、一の谷懐古        | 梁川星巖 (やながわ せいがん)  |
| 11、逸題          | 橋本左内 (はしもと さない)   |
| 13、憤りを書す       | 陸 游 (りくゆう)        |
| 15、飲酒          | 陶 潜 (とうせん)        |
| 17、欧亜両断を誓う     | 福島安正 (ふくしま やすまさ)  |
| 19、桜花の詞        | 作者不詳              |
| 21、桜花を讃う       | 角光嘯堂 (かくみつ しょうどう) |
| 23、近江八景        | 大江敬香 (おおえ けいこう)   |
| 25、合戦川中島       | 角光嘯堂 (かくみつ しょうどう) |
| 27、花月吟         | 藤野君山 (ふじの くんざん)   |
| 29、冑山の歌        | 頼 山陽 (らい さんよう)    |
| 31、樺太州         | 国分青厓 (こくぶ せいがい)   |
| 33、閑遊          | 大窪詩仏 (おおくぼ しぶつ)   |
| 35、鵝湖寺にて陸子寿に和す | 朱 熹 (しゆき)         |
| 37、岳陽楼に登る      | 杜 甫 (とほ)          |
| 39、感懐          | 劉 長卿 (りゅう ちょうけい)  |
| 41、咸陽城の東楼      | 許 渾 (きょこん)        |
| 43、礎を聞く        | 本宮三香 (もとみや さんこう)  |
| 45、吟詠道         | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 47、吟魂碑         | 武田静山 (たけだ せいざん)   |
| 49、帰省          | 狄 仁傑 (てき じんけつ)    |
| 51、曲江          | 杜 甫 (とほ)          |
| 53、金陵の鳳凰台に登る   | 李 白 (りはく)         |
| 55、棄児行         | 作者不詳              |
| 57、吉次峠の戦い      | 佐々友房 (さっさ ともふさ)   |
| 59、九月十五夜       | 菅原道真 (すがわらのみちざね)  |
| 61、雲井竜雄を憶う     | 谷 干城 (たに たてき)     |
| 63、草           | 白 居易 (はく きょい)     |
| 65、偶成          | 勝 海舟 (かつ かいしゅう)   |
| 67、偶成          | 木戸孝允 (きど たかよし)    |

69、軍神広瀬中佐	鈴木豹軒 (すずき ひょうけん)
71、月夜荒城の曲を聞く	水野豊洲 (みずの ほうしゅう)
73、月下独酌	李 白 (りはく)
75、児島高德桜樹に書するの図に題す	斎藤監物 (さいとう けんもつ)
77、五合庵	良 寛 (りょうかん)
79、獄中感有り	西郷南洲 (さいごう なんしゅう)
81、獄中の作	頼 鴨厓 (らい おうがい)
83、意に可なり	良 寛 (りょうかん)
85、子を戒む	邱 濬 (きゅうしゅん)
87、黄鶴楼	崔 顥 (さいこう)
89、香炉峰下の山居	白 居易 (はく きょい)
91、胡笳の歌顔真卿の使いして河隴に赴くを送る	岑 参 (しんしん)
93、江上吟	李 白 (りはく)
95、行路難	李 白 (りはく)
97、坂本竜馬	松口月城 (まつぐち げつじょう)
99、左遷せられて藍関に至り姪孫湘に示す	韓 愈 (かんゆ)
101、酒を酌んで裴迪に与う	王 維 (おうい)
103、山園小梅	林 逋 (りんぼ)
105、山西の村に遊ぶ	陸 游 (りくゆう)
107、山中の月	真 山民 (しん さんみん)
109、桜井の駅址を過ぐ	頼 山陽 (らい さんよう)
111、酒を把って月に問う	李 白 (りはく)
113、雑詩	陶 潜 (とうせん)
115、春日山荘	有智子内親王 (うちこないしんのう)
117、四十七士を詠ず	坂井虎山 (さかい こざん)
119、失題	勝 海舟 (かつ かいしゅう)
121、述懐	頼 山陽 (らい さんよう)
123、述懐	蒲生君平 (がもう くんぺい)
125、静御前	頼 山陽 (らい さんよう)
127、秋思の詩	菅原道真 (すがわらのみちざね)
129、祝賀の詞	河野天籟 (こうの てんらい)
131、諸生に示す	安積良斎 (あさか ごんさい)
133、彰義隊	向山黄村 (むこうやま こうそん)
135、小楠公の母を詠ず	本宮三香 (もとみや さんこう)
137、子夜呉歌	李 白 (りはく)
139、子由の澗池懐旧に和す	蘇 軾 (そしよく) IP h h

141、春望	杜 甫 (とほ)
143、秋興	杜 甫 (とほ)
145、秋日偶成	程 顥 (ていこう)
147、蜀相	杜 甫 (とほ)
149、侍輿の歌	頼 山陽 (らい さんよう)
151、述懐	藤田東湖 (ふじた とうこ)
153、娑婆歌	日柳燕石 (くさなぎ えんせき)
155、囚中の作	高杉晋作 (たかすぎ しんさく)
157、書懐	西郷南洲 (さいごう なんしゅう)
159、述懐	魏 徵 (ぎちよう)
161、啾々吟	王 守仁 (おう しゅじん)
163、炊煙起る	頼 山陽 (らい さんよう)
165、惜春詞	小野湖山 (おの こざん)
167、前兵児の謡	頼 山陽 (らい さんよう)
169、戦後述懐	秋月胤永 (あきづき たねなが)
171、正気之歌	広瀬武夫 (ひろせ たけお)
173、曾我兄弟	松口月城 (まつぐち げつじょう)
175、双殉行	竹添井井 (たけぞえ せいせい)
179、大楠公	河野天籟 (こうの てんらい)
181、筑前城下の作	広瀬淡窓 (ひろせ たんそう)
183、長安春望	盧 綸 (ろりん)
185、茶の歌	盧 仝 (ろどう)
189、月に対して元九を憶う	白 居易 (はくきょい)
191、燕の詩・劉叟に示す	白 居易 (はくきょい)
195、天意を識る	西郷南洲 (さいごう なんしゅう)
197、天童八景	武田静山 (たけだ せいざん)
199、膳王閣	王 勃 (おうぼつ)
201、登高	杜 甫 (とほ)
203、洞庭に臨む	孟 浩然 (もう こうねん)
205、寧楽懐古	太宰春台 (だざい しゅんだい)
207、楠公墓前の作	吉田松陰 (よしだ しょういん)
209、新潟に宿す	吉田松陰 (よしだ しょういん)
211、梅花	高 啓 (こうけい)
213、初めて建寧に到り詩を賦す	謝木方得 (しゃぼうとく)
215、母を送る路上の短歌	頼 山陽 (らい さんよう)
217、白頭を悲しむ翁に代る	劉 希夷 (りゅう きい)

2 2 1、琵琶湖上の作	室 鳩巢 (むろ きゅうそう)
2 2 3、備後三郎詩を桜樹に題するの図	菅 茶山 (かん ちゃざん)
2 2 5、白虎隊	佐原盛純 (さはら もりずみ)
2 2 7、富士山を詠ず	柴野栗山 (しばの りつざん)
2 2 9、笛を吹く	杜 甫 (とほ)
2 3 1、兵児の謡	末松青ひょう (すえまつせいひょう)
2 3 3、暮秋雑吟	土屋竹雨 (つちや ちくう)
2 3 5、墨水秋夕	安積良斎 (あさか ごんさい)
2 3 7、本能寺	頼 山陽 (らい さんよう)
2 3 9、満州の月	本宮三香 (もとみや さんこう)
2 4 1、水戸八景	徳川景山 (とくがわ けいざん)
2 4 3、無心	良 寛 (りょうかん)
2 4 5、無題	佐久間象山 (さくま ぞうざん)
2 4 7、無題	村上仏山 (むらかみ ぶつざん)
2 4 9、無題	夏目漱石 (なつめ そうせき)
2 5 1、村山八景	武田静山 (たけだ せいざん)
2 5 3、門を出でず	菅原道真 (すがわらのみちざね)
2 5 5、蒙古来	頼 山陽 (らい さんよう)
2 5 7、容奇	新井白石 (あらい はくせき)
2 5 9、幽居即事	石川丈山 (いしかわ じょうざん)
2 6 1、遊子吟	孟 郊 (もうこう)
2 6 3、友人を送る	李 白 (りはく)
2 6 5、夜座す	王 守仁 (おう しゅじん)
2 6 7、義経の末路 (其の一) 安宅の関	松口月城 (まつぐち げつじょう)
2 6 9、義経の末路 (其の二) 衣川	松口月城 (まつぐち げつじょう)
2 7 1、落花	鱸 松塘 (すずき しょうとう)
2 7 3、柳州の城楼に登る	柳 宗元 (りゅう そうげん)
2 7 5、旅夜懐を書す	杜 甫 (とほ)
2 7 7、零丁洋を過ぐ	文 天祥 (ぶん てんしょう)

以上

